

## 編集後記

本誌の編集委員を仰せ付かって早一年になりました。「単一分子量の単離した化合物」を対象とする正統な有機合成化学からは「異端」であった高分子合成化学に私が携わってもう30年にもなろうとしています。MALDIやAFM等ひとつひとつの高「分子」を見る技術の革新も相俟って、この分野もついに基礎化学の一端を担う時代になってきたようです。私は研究生活を光学活性コバルト錯体の不斉触媒反応の卒論で始めたのですが本誌とは暫らくのご無沙汰の期間があり、今回改めて本誌の変わらぬプレステージに感銘を受け、その裏方として不断のご尽力をボランティアで続けておられる（特に若手の）編集

委員会のみなさんと一緒にの機会を大変感謝しています。ちょうど私がベルギー留学中に大変お世話になった中野さんが事務局長を退任されたのと入れ替わりにお手伝いに加わるようになったことにも因縁を感じています。わたしの学生当時から、本誌は錚々たる諸先輩が大変力を込めた総説・解説を執筆されることで定評があり、研究の最前線から産み出される「教科書に載る前の」研究成果や将来の挑戦課題を熱く語る論文の数々は、駆け出しの研究者にとって「のだめカンタービレ」の「あこがれのステージ」のようにも見えました。これからも「さあ楽しい化学の時間のはじまりだ！」と学生・院生の皆さんが本誌から感じていただけたらと思います。

(手塚育志)